

第345回山口西田読書会（2024年3月2日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「場所」「五」の第4段落 286 頁 14 行目から同段落 287 頁 7 行目まで

2. キーワードないしキーセンテンス

「直観面は知識面を越えて無限に広がる故に、その間に随意的意志が成立するのである。」(287, 6-7)

3. 考察及び問い

「直観の述語面に於てあるもの」は「直観面」から見れば「状態としての意志」であり、「知識面」から見れば「作用としての意志」であるといわれる。そして、「直観面は知識面を越えて無限に広がる故に」、すなわち、「状態としての意志」は「作用としての意志」を越えて無限に広がる故に、その間に「随意的意志」が成立するといわれる。しかし、どこから見れば「随意的意志」が成立するといえるのだろうか。この「随意的意志」の成立をどのように考えればよいか。